

傷跡修正とは

傷跡修正とは、身体に残る傷跡を切開・縫合により目立たなくさせる手術です。

怪我や火傷の傷跡、縫合跡、リストカット跡などのうち小さい傷跡が適応となります。

ただし、完全に消えてなくなるわけではありません。

傷跡修正後の状態・ケアについて

- ・当日は手術部位に触れたり、濡らさないようご注意ください。術後24時間経過後は手術日周辺も含め洗っていただけます。
- ・当日は手術部位を濡らさないようにしていただき、ぬるま湯で軽いシャワーを浴びる程度にしてください。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、長時間の入浴や熱いお風呂は避け、シャワーのみにしていただくことをおすすめします。
- ・1週間後に来院していただき、抜糸を行います。
- ・傷口周辺は不必要に触らず、できる限りいじらないようにしてください。入浴時など、傷口周辺に触れる際は優しく、ゴシゴシと擦らず、なるべく負担をかけないようにしてください。
- ・強い腫れは、1〜2週間程度で引いていきます。その後も時間の経過と共に腫れは引いていきます。
- ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
- ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。
- ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は当面の間お控えください。

※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。

※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。

※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

傷跡修正で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

手術部位の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【痛み】

術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね1〜2週間ほどで腫れは引いていきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【肥厚性瘢痕（ケロイド）】

ケロイド体質の方は傷が治る過程で皮膚が盛り上がりしてしまう場合があります。その場合、別途瘢痕に対する治療が必要になります。

【傷跡】

日焼けした肌や褐色調の部位は、やや白い色として治ることがあります。

【手術部位の赤み】

手術部位に赤みが残る場合があります。3〜6か月かけて徐々に落ち着いていきます。体幹部などは1年以上かかる場合もあります。

【色素沈着】

手術部位に赤みがある間とはとくに肌がダメージを受けやすい状態のため、通常の日差しでも色素沈着してしまうことがあります。外出の際は、日焼け止めクリームをしっかりと塗るなど必ず紫外線対策をしてください。

傷跡修正をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、手術部位に怪我や炎症がある方、麻酔剤にアレルギーのある方、その他医師が不可と判断した場合は手術を受けられません。